

営農ウィークリーNEWS

令和元年産イネづくりスタート！（苗づくり編）

問1 通常、芽と根はどちらが先に出るか？

問2 発芽に光が必要か？

問3 種もみを60℃にさらすと何時間で死滅するか？

問4 育苗時に水をやり過ぎるとどうなるか？

問5 葉が巻き萎れ黄褐変して枯死するムレ苗の発生原因は何か？

答5 異常低温に数時間合うと根の活性が弱り、蒸散に吸水が追いつかず葉が巻き、菌が侵入



水稻クイズその1（その2は次号）

答1 水分吸収が始まり、芽が出る鳩胸状態を発芽とする

答4 吸水力の弱い苗ができ本田での活着が遅くなる

答3 一時間ほどで死滅、45度以上は危険

答2 光は特に必要はない。

元号が変わり新たな年のイネづくりがスタートします。苗半作の言葉どおり、がっちりとしたいわゆる健苗づくりに努め、本田管理をスムーズに進めたいものです。

「稲は地力でとり、麦は肥料でとる」と古来より言われてきたとおり、秋～春にかけて行ってきた土作りの効果が発揮される時期になりました。

また、育苗中の高温障害が毎年出ています。25℃以上の日は水稻育苗中のトンネル内は40℃以上になり、高温障害で全滅することもあります。十分換気に心がけてください。

—TAC information—

『穴あきトンネル効果確認』



写真は、「おんどとり」という、定期的に温度を記録することができる機器を設置している様子です。

穴あきトンネルは換気の手間が省けオススメです。通常トンネルとの温度差を実際に計測してみます！結果は、後日！！